

「学校の桜を守り育てる」桜守ボランティア活動報告

日 時／6月28日(土)10:00～14:00 (昼休憩 12:00～13:00)

場 所／広島文教大学

目 的／毎年きれいな桜を咲かせるための桜の保全作業に関わることで、自然に関わりながら環境を整える大切さについて知る機会とする。

参加者／23名(ひろしま人と樹の会会員:11名、広島文教大学生:10名 教職員:2名)

<活動内容>

大学校内の桜約20本の施肥・土壌改善、ツル切除作業

<スケジュール>

- 10:00 集合、「サクラと桜守」の講義受講
- 11:00 作業場所へ移動、作業について確認
作業班に分かれて桜の施肥作業開始
- 12:00 昼食休憩
- 13:00 作業再開
- 14:00 作業終了、振り返り、解散



(感想)

- 桜を守っていくためには「手入れ」が重要なことを座学と実習を通して学びました。桜は、毎年景色を彩ってくれるだけではなく、温かく迎え入れてくれたり、送り出してくれたりします。そのような桜をたくさん見るためにも、私たち人間の手で守り育てていくことを大事にしていきたいと思いました。
- 桜の保全活動について。また、桜のあるキャンパスとして「見送り桜」「出迎いの桜」を大切にしていること。そして実際に、自分達の手で桜を管理する体験をさせていただき、非常に実りのある経験になった。
- 桜は手を加えていかないと絶滅してしまうことは驚いた
- 木を一本切るのも考えることがあって、経験と知識のなせる業だと感じた。何気なくきれいだという感想しかなかった桜が今回の活動を通してきれいな桜にはそれ相応の保全活動の努力があると分かり感動した。

- 今回の活動を通して、今まで経験したことがない桜の保全活動を経験することができました。最初は、上手くできるか心配でしたが、班員のみんなや人と樹の会の方たちのおかげでとても楽しく作業を行うことができました。次の桜守の活動にも参加したいと思いました。
- 桜は人が手入れしてこそ、輝き、長生きができるという正本先生の言葉が印象に残りました。また、春に綺麗な桜を見ることができるのは、人と樹の会のみなさんのように、桜の保全活動を行っている方々がいるからだとなり、当たり前なことではないのだと感じました。今回肥料を埋める活動に参加したことで、来年の桜を見るときは、いつも以上に綺麗に見れるような気がします。貴重な経験をありがとうございました。
- 桜のことについて知れたり、普段使えない道具を使うことができて楽しかった。